

# がんばれ 後輩たち

## 元日本農業新聞記者より

### 生産者や市場により愛される関係事例？

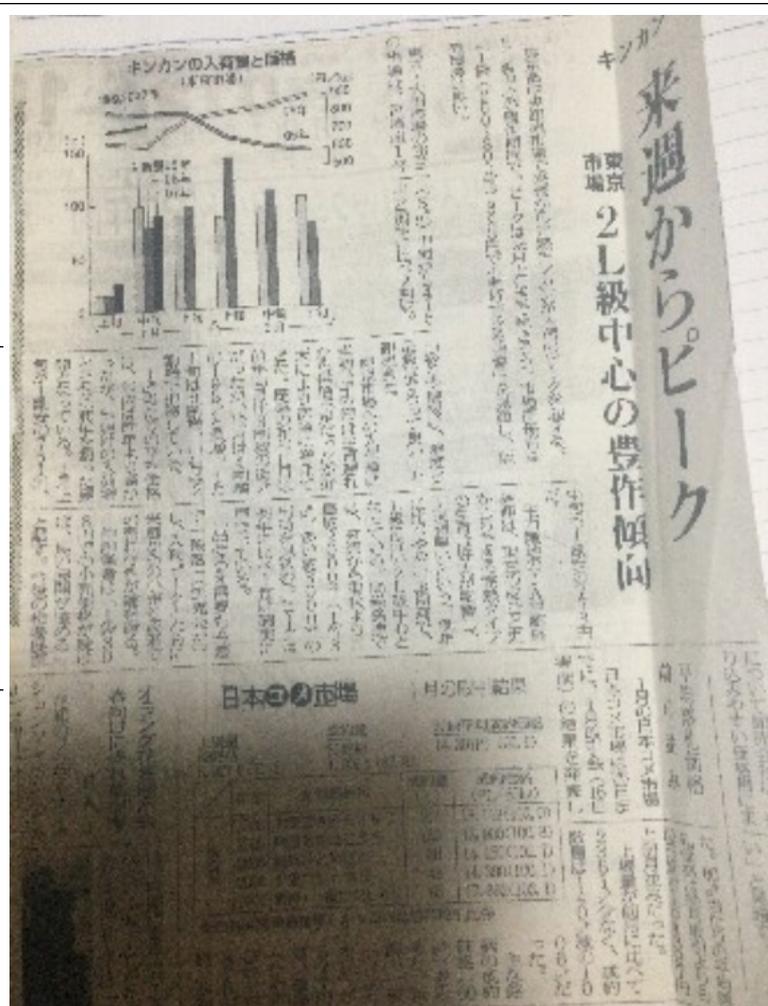
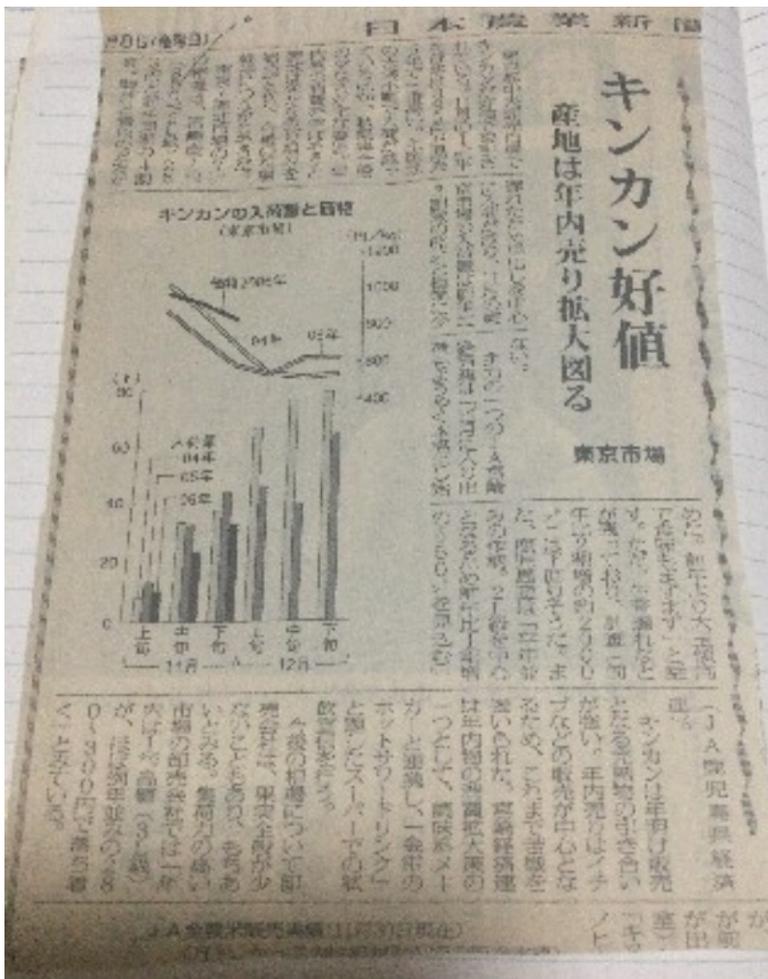
「小森（天地成行）、堂々と日本農業新聞記者だったって世に名乗っていいんだよ。（株式会社化の日の一面担当編集整理など）会社に数多く貢献し

てくれたじゃあないか」。在籍時に病気のワタシに伴走してくれた元編集局長のOさんはメールをくれた。いまの社長や多くのみ

なさんとも楽しく仕事をしてきたし、ささえていただいた。自分の精神疾患のリカバリが進んできて、できるときにできること、と会社に恩を報い

るときがきた！ かもと勝手に、東京都中央卸売市場大田市場時代のスクラップを読んでいて思った。これには少し背景があ

る。ワタシと大橋広宣さんの対談本『精神疾患の元新聞記者と発達障害の元新聞記者がお互い取材してみた。』（ロゼッタストーン）の全国図書館配架状況をチェックしていて、四国のある小さな町に配架されていて、そこにお世話になった会長さんがいま集落維持のリーダーをされていて裏はとれずともものすごい御縁を感じ、つい連絡してしまい懐かしい話をしたのだ。彼とは一回しか

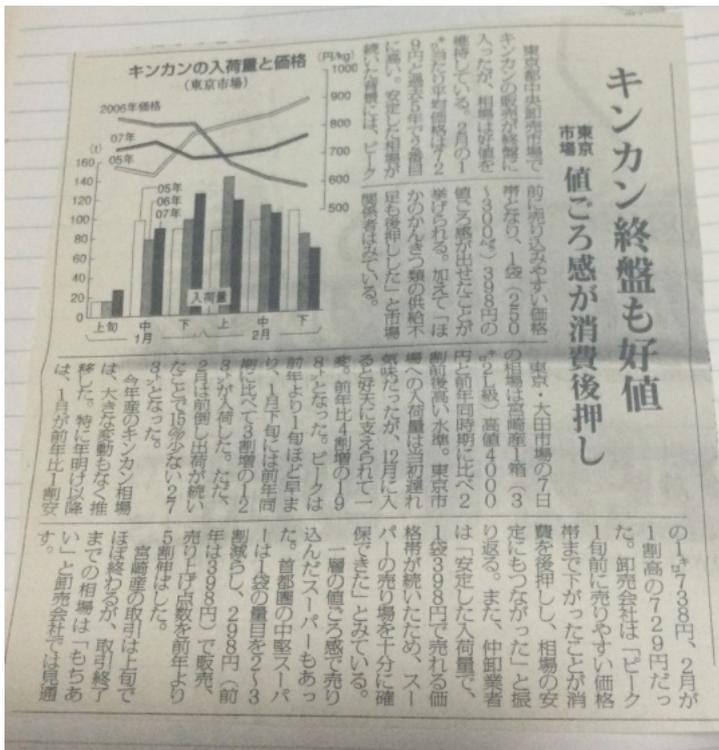


会ってない。それもワタシは病んでいていて苦し中の取材であったが、後日お手紙を四国から東京にいただく。それを四国支局経験者に「すごい律儀な方ですね」ときくと「こんなことをする方にお見受けしないが……」の返事。それを二十年たつてきてみた。御縁を気にするようになったのは長年であるが、実践でよく覚えていた事例もなかなかない。

まあ、そんなわけで日

本農業新聞では数えきれない「奇縁」があった。その中で、市場時代に限定して、二つ三つ記事の解説をしながら、わたしがリカバリしてきている記念に、いまもしかしたら記者人生で苦しんでいるかもしれない若手を想定して、わが農産物物況記事から「勝手エール」を贈ります。一日遅れのクリスマスプレゼントということで（、イ、）。

まず、日本農業新聞という新聞はとても素晴らしい特性がある。それは、東京に集約した情報なり、東京発の政治や経済情報を、一番田舎の限界まで翌日に「11版」「12版」という二段の工程で全国に「最新版」を届けていること。これは、どこにもありえない素晴らしいもの。ともすれば大手紙は田舎の軽視も甚だしいところも「かつては」あった。それを自前の印刷機を失った今でも、日本農業新聞社員はぎりぎりまで作業している。拍手をおくりたい。それで、今回は、年内のキンカンの記事とラフランス



の1袋380円、2月が1割高の729円だった。卸売会社は「ピーク1旬前に売りがついた価格帯まで下がったことが消費を後押しし、相場の安定にもつながった」と振り返る。また、仲卸業者は「安定した入荷量で、1袋380円で売れる価格が続いたため、スーパーの売り場を十分に確保できた」とみている。

進」的に10行を書いた。それで当時遊軍だった私は、卸からお呼びだしをいただく。以下会話。

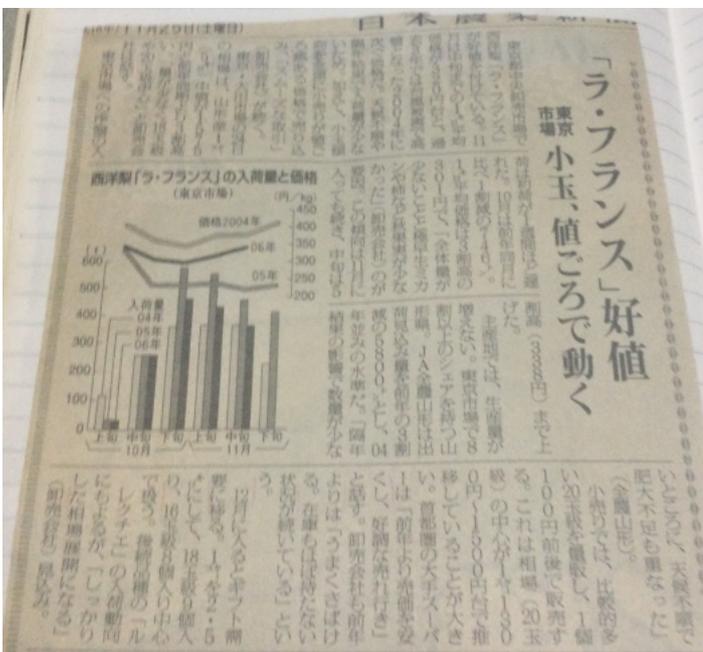
「きみ、キンカン販売のデリケートなところを知ってる？」（セリ人さん）

「わかりません」（市場記者二年目のわたし）

「あのねー、メインは年明けからで宮崎産が大玉になって本格売りをスーパーなどに回りたいのです。それを出鼻くじかれ

る記事はあなたが売り込む立場ならどうなんだい？ それでなくともキンカンの記事なんてなかなか書いてくれないでしょ御紙でも……」

「はい、すみませんでした。（※キンカンならぬカンカンになられてるトキンカンなワタシ）では、ぜひここでおきかせくださいませんか？ 秋冬果物は柿あたりから梨、リンゴ、ミカン、イチゴなどあってスーパーでキンカンの売り場狭いです



「おっ、聞いてくれる？ 今年ね、メーカーと組んで『ホットワードリンク』の試飲宣伝を企画しているんだよ」

「じゃあ、それ入荷量や産地リレー含めてワタシ今年、「出始め・ピーク・終盤」の三段でキンカン追います。覚悟してください。しつこくきますから」

「おお、そうかー」

それで紙面のように本当にマーケット欄で三回、デスクの検閲も通り掲載。師匠のKさんからは「キンカンで三本まとめたの、日本農業新聞ではじめてかもしれない。がっつは」と激賞される。このセリ人さんには販売終了後に棟内でお会いたした時に「キミ、なかなかやるねー。これからもよろしく頼む」と認められたことばをかけていただいたことは忘れられない。

元新聞記者の告白  
統合失調症・闘病記

わたしは  
**山頭火!**

いつ自分か家族が  
**心を病んで  
ダウンするかもしれない!!**  
これは、そんな不安を抱える私たちへの  
強力なサバイバルガイドだ—「出版によせて」より  
山口県立大学名誉教授 安漢遊地  
定価1,000円+税

てんち なりゆき  
**天地成行**

ラフランスの記事にうつりましょう。この記事はなかなか構想が描けなかったんです。スーパーにいったっては、ラフランスを買ってもぐもぐもぐもぐ。うまいけど、記事にできないなー、というところに、この年のラフランスは一個売りがどこに行っても100円前後と値ごろでありました。そこから逆算して利益を考えました。中間のマージンみたいなものです（当時ですが）。二十個売り

の1ケース、これを20玉級などといいます。これが100円が一個売りなら2000円。それであらためて相場を見ると、市場での売買が「ゲース1300円から1500円」と出ます。これものすごくわかりやすいなあと思ったら、朝の4時に家を出てました。大田市場のせり場を横でみながら、興奮してまだ暗い市場記者クラブへ行った。思い出は忘れられません。両記事ともものすごく評価されたわけではない

けど、市場との関係構築ならびに、遠く離れた生産者にわかりやすい記事が提供できたとおもっています。こういうことがなんとなくできていた発病後の仕事というの感慨深いですね。日本農業新聞の今後の発展を祈ります。こころとからだと御縁を大切に、天地成行でした。（てんち・なりゆき ほっこりアイデア チャンスメイカー常務、のmoking浄化器）※好評ならシリーズ化も考えます。



精神疾患の元新聞記者と  
発達障害の元新聞記者と  
お互いを取材してみた。

精神  
感情  
統合失調  
障害

お二人の対談は爆笑しながら優しい気持ちになれる。リスペクト・トレーニングもいいけれど、この本を読めば必ずや他人と自分に優しくなれるはず！なんなら道徳の教科書にしてほしい！

天地成行 × 大橋広宣

**脚本家・映画監督 足立紳氏絶賛!**  
(NHK連続テレビ小説「ブギウギ」脚本・映画「百円の恋」脚本他)  
「お二人の対談は爆笑しながら優しい気持ちになれる。リスペクト・トレーニングもいいけれど、この本を読めば必ずや他人と自分に優しくなれるはず！なんなら道徳の教科書にしてほしい！」